

まなびや

イチヨウの木の上で

布団を持ち込み、何日も徹夜で観察



東大植物園のイチヨウ

平瀬作五郎は、ぎんなんの成熟期を迎えると、この大イチヨウの木に梯子をかけて下枝に襦やぐらを組み、そこへ布団を持ち込み、夜になると提灯ちようとうを灯し何日も徹夜をし、一定時間ごとにぎんなんを採集した。「イチヨウ精子発見」の検証 平瀬作五郎の生涯 本間健彦著より)

本県出身の植物学者である平瀬はイチヨウの生きた精子を発見しましたが、わずか一月の受精期間の中の一つたつた一日しか精子を確認できないので、延々と自分の手で膨大な数のぎんなんを採集し、当時の低倍率の顕微鏡で観察し続けて得た成果でした。

今年、平瀬の生誕170年の記念すべき年。特別展「平瀬作五郎とイチヨウの精子発見」世界が認めた観察眼」は7月5日まで開催。画工や教師としても常に創造的で実直な平瀬の姿を紹介します。(左は平瀬が描いた挿絵)

平瀬が観察したイチヨウの植樹式

当時平瀬が観察したイチヨウの稚苗(東京大学植物園から譲渡)を6月11日、当館の中庭に植樹します。

植樹式には平瀬の出生地を校区とする旭小学校の6年生も参加します。平瀬のイチヨウが福井の地に根付いて元気に育つことを願っています。



出典：松村三著 植物学教科書

大きな地図や精密な図絵を教室の黒板に掛けて、より興味深く、わかりやすく子どもたちの助けとなった掛図かけず。

7月11日から「掛図」に関する展示を開催する予定です。明治から現代まで使用されてきた掛図からは、当時の人々の生活や作者の思いが伝わってきます。

カラー写真のなかった時代に描かれた細密で色鮮やかな絵図で、興味を引き出すためさまざまに工夫された掛図を実際に目にすると、当時の子どもたちの好奇心あふれる授業風景が浮かんできます。



昭和38年当時の福井県の地図

黒板に掲げられた美術品

「掛図」展

6月10日は「時の記念日」。日本で初めて時計が使われた日とされ、正しい時刻を守ることを目的としています。当館では「古時計」が3つ、今も動き続けています。

学校の古時計 時の記念日



③



②



①

①は入り口左側の柱時計。昭和27年に春江小学校の講堂に設置された、重力を利用して2つの鉄の錘おもりで動く珍しい錘式時計です。②は入り口通路突き当たりの大きな掛け時計。昭和3年度の卒業記念に旧池田第一小学校の講堂に設置されました。③は展示室D

の教室用の掛け時計(経歴不詳)です。

②と③の時計はボンボン時計なので、タイミンクが合えば鐘の音が聴けます。

梅雨つゆといえば紫陽花あじさい、アジサイといえはかたつむりの印象があります。アジサイは福井市の花ですが、カタツムリも福井に縁があります。

文部省唱歌でおなじみの「かたつむり」。福井市出身の国文学者芳賀矢一(展示室B)が校閲して、今の歌詞になりました。多目的室の唱歌・童謡検索システムで「かたつむり」の歌も聴けます。

「かたつむり」「でんでんむし」「まいまい」：福井県内の方言だけでも呼び方が4・5種類あります。方言調べも楽しいかも！

でんでんむしむしかたつむりー



A1作成